



The Japanese Association for Behavior Analysis

# 一般社団法人日本行動分析学会 第37回年次大会

## プログラム

会期：2019年8月30日（金）～9月1日（日）  
会場：小樽市民会館





## 会場案内

### 【年次大会 会場】

#### ●小樽市民会館

〒047-0024 北海道小樽市花園 5 丁目 3-1

<http://otarushiminkaikan.jp>

※小樽駅より徒歩 15 分



※中央バス [http://www.chuo-bus.co.jp/city\\_route/course/otaru/](http://www.chuo-bus.co.jp/city_route/course/otaru/)

- |                           |   |                  |
|---------------------------|---|------------------|
| 「小樽駅前」乗車 (2・3・1・38・42 系統) | → | 「花園公園通」下車徒歩 10 分 |
| 「小樽駅前」乗車 (6・16 系統)        | → | 「花園公園通」下車徒歩 10 分 |
| 「小樽駅前」乗車 (南 4 系統)         | → | 「市民会館通」下車徒歩 5 分  |
| 「小樽駅前」乗車 (24 系統)          | → | 「市民会館通」下車徒歩 1 分  |

### 【懇親会 会場】

#### ●小樽タイムズガーデン

〒047-0007 北海道小樽市港町 5-4

<http://otaru-times-garten.com/>

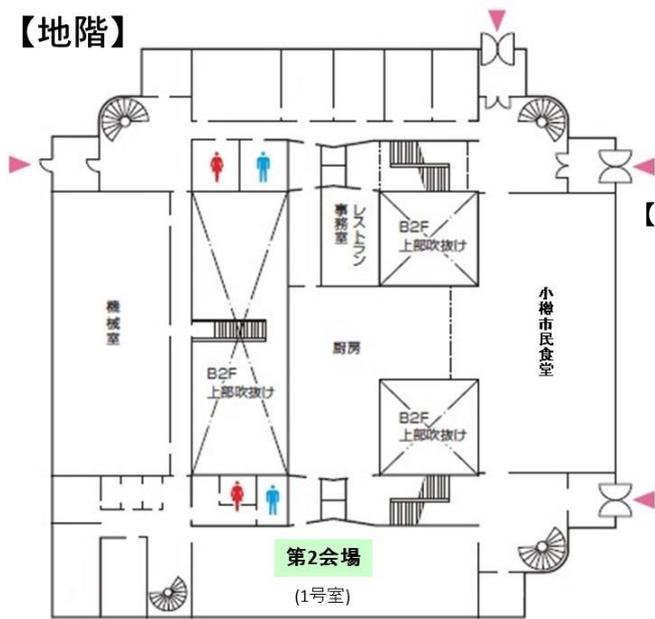
※JR 小樽駅より徒歩 10 分



※懇親会参加者の方へは、特別講演終了後、大会会場より懇親会会場までバスでご案内します。

# 会場見取り図

## 【地階】



## 【地階】

### 第2会場 (1号室)

- ① 自主企画シンポジウム 1
- ② 自主企画シンポジウム 4
- ③ 自主企画シンポジウム 5
- ④ 大会企画シンポジウム
- ⑤ 多職種連携・交流会
- ⑥ 公募企画シンポジウム 2
- ⑦ 公開講座

## 【1階】

### 第1会場 (ホール)

- ① 教育講座 1
- ② 第3回若手研究者口頭発表セッション
- ③ 公募企画シンポジウム 1
- ④ 会員集会
- ⑤ 特別講演

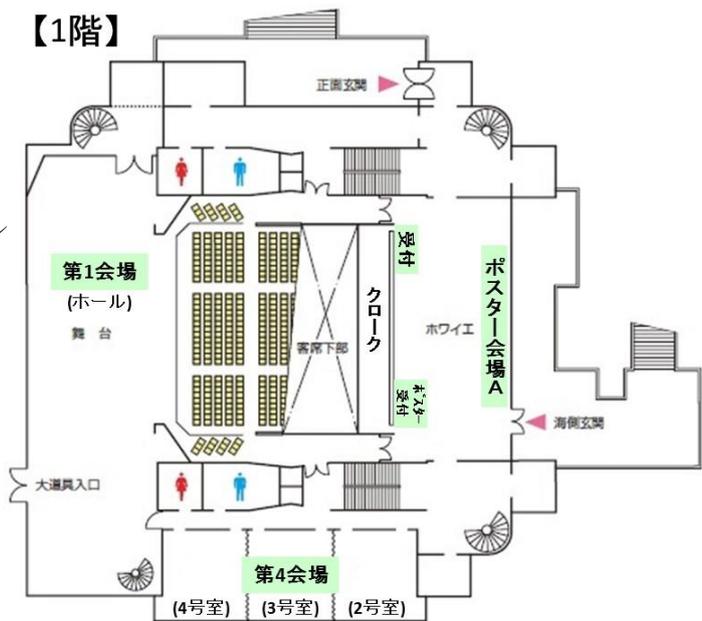
### 第4会場 (2・3・4号室)

- ① 自主企画シンポジウム 3
- ② 教育講座 2

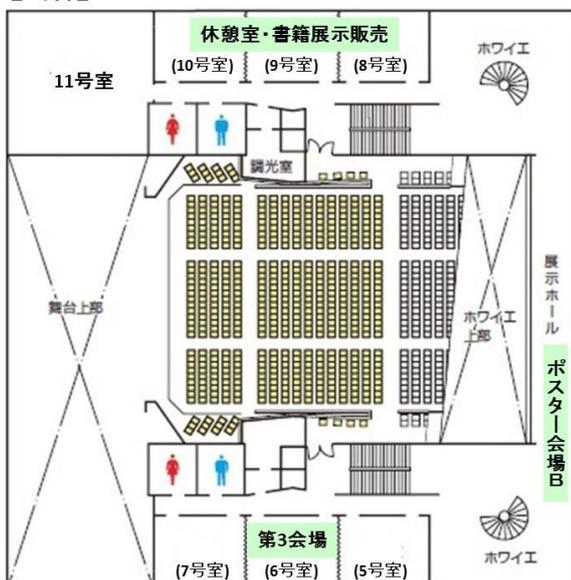
### 2号室

- ① 編集委員会

## 【1階】



## 【2階】



## 【2階】

### 第3会場 (5・6・7号室)

- ① 自主企画シンポジウム 2
- ② 自主企画シンポジウム 6

### 11号室

- ① 理事会

## ごあいさつ

日ごとに暑さが増してきました今日この頃、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、一般社団法人日本行動分析学会第 37 回年次大会を小樽市民会館（北海道小樽市）にて開催させていただきます。会期は、2019 年 8 月 30 日（金）から 9 月 1 日（日）の 3 日間です。北海道での大会開催は、実に「20 年ぶり」ということになり、身の引きしめる思いで準備を進めております。

本大会には、80 演題のポスター発表、3 本の公募企画シンポジウム、6 本もの自主企画シンポジウムと沢山のご応募をいただきました。また、研究や行動分析学の初学者向けの教育講座を始め、若手研究者口頭発表セッション、大会企画シンポジウム、学会企画シンポジウム、公開講座、そして William L. Heward 博士による特別講演と大変充実した大会になるものと確信しております。

また、2 日目の夕刻には、小樽運河沿いにあるレンガ倉庫群のレストランにて懇親会を催します。是非、沢山の方にご参加いただき、広く交流を深めてもらえればと思います。

この時期の北海道は、秋の気配を感じ始める頃でもあるので食の秋を満喫できる季節になります。また、小樽市は観光スポットも多く、札幌市からの交通の便も非常に良いです。存分にお楽しみいただけるのではないかと思います。本大会が、皆様の実りある交流と行動分析学の発展に貢献できますよう、努力いたします。

小樽市へお越し頂きますことを、準備委員会一同お待ちしております。

日本行動分析学会第 37 回年次大会準備委員会  
委員長 遠藤 晃祥

## 大会参加者へのご案内

### 1. 受付

受付は、大会 1 日目 8 月 30 日（金）は 11:00 から、大会 2 日目・3 日目は 8:30 から 1 階ホワイエで行います。予約参加をされた方は、お名前とご所属を印刷した参加章をお渡しいたします。当日参加の方には、大会参加費のお支払いと引き換えに参加章をお渡しいたしますので、お名前とご所属をご記入ください。参加章は、大会会場内は、はっきりと見えるところにつけてください。

### 2. 諸費用

当日参加による大会参加費は以下のとおりです。お支払いは受付にてお願いいたします。大学院生・学部生の方は、学生証もご提示ください。

	正会員			非会員		
	一般・夫婦	大学院生	学部生	一般	大学院生	学部生
大会参加費	5,500 円	4,500 円	1,500 円	6,000 円	4,500 円	1,500 円
懇親会費	7,000 円	5,000 円	3,500 円	7,000 円	5,000 円	3,500 円

### 3. 懇親会

8 月 31 日（土）の 17:30 より小樽タイムズガーデン（<http://otaru-times-garten.com/>）で開催します。懇親会参加者の方へは、特別講演終了後、大会会場より懇親会会場までバスでご案内します。

懇親会の当日参加も大会受付で承ります。なお、定員に達し次第終了となりますので、お早めにお手続きください。

#### 4. クローク

お荷物は1階ホワイエにてお預かります。ご利用時間は、8月30日（金）11:00～19:00、8月31日（土）8:30～17:30、9月1日（日）8:30～17:00です。なお、日付を越えてのお預かりはできませんので、必ず当日中にお引き取りください。

#### 5. 休憩室

休憩室は、2階8・9・10号室に設けております。ご利用時間は、8月30日（金）11:00～17:00、8月31日（土）8:30～17:00、9月1日（日）8:30～15:00です。書籍の展示・販売および論文交換スペースも兼ねています。

#### 6. 書籍の展示・販売

書籍の展示・販売は、2階8・9・10号室の休憩室と併設して行います。

#### 7. お呼び出し・お知らせ

原則として会場内でのお呼び出しはいたしません。なお、変更等連絡事項が生じた場合は、大会フェイスブックにてお知らせします。



#### 8. お食事について

小樽市民会館の地階に小規模ですが小樽市民食堂が営業しています。徒歩圏内にコンビニエンスストア、市街地の飲食店がございます。

#### 9. コピー機

近隣にコンビニエンスストアが営業しておりますので、そちらのコピー機をご利用ください。

#### 10. 会場への車の乗り入れ

小樽市民会館へは駐車できませんので近隣の有料駐車場をご利用されるか、公共交通機関をご利用ください。車椅子のご利用など、自動車の乗り入れが必要な場合には、事前に大会準備委員会までご連絡ください。

#### 11. 連絡先

受付（1階ホワイエ）または [jaba-meeting@j-aba.jp](mailto:jaba-meeting@j-aba.jp) までご連絡ください。

#### 12. その他

第1会場（1階ホール）での飲食はできませんのでご協力お願いいたします。

館内は全面禁煙となっております。玄関に灰皿を設置しておりますので、決められた場所での喫煙にご協力お願いいたします。

## シンポジウム関係者へのご案内

### 1. パソコン・プロジェクターなど

シンポジウム会場に Windows パソコン，プロジェクターを準備いたします。ご自身のパソコン等を用いられる場合は，VGA 端子での接続が可能です（これらの端子の接続に必要なコネクタ等はご自身でご用意ください）。その他の機材については，準備委員会にお問い合わせください。

### 2. 配布資料

配布資料がある場合は，企画者ご自身でご準備ください。

## ポスター発表者へのご案内

### 1. 会場・時間

8月31日（土）・9月1日（日）両日共に，11:00～12:30 の時間帯にポスター会場 A（1階ホワイエ）またはポスター会場 B（2階展示ホール）にポスターを掲示していただきます。本大会では，在席責任時間を指定しませんので，発表者は掲示時間帯内で1時間在籍し質疑応答をしてください。

ポスターセッション終了後は，当日の大会プログラム終了までにポスターの撤去をお願いします。残っているポスターは大会本部で処分いたします。

### 2. ポスター受付

8月31日（土）・9月1日（日）両日共に，8:30～11:00 のポスター貼付時間帯にポスター受付（1階ホワイエ）までお越しください。受付を済ませた後，所定のパネルにポスターを貼ってください。

### 3. 掲示パネル

パネルは A0 サイズ（幅 841mm×高さ 1,189mm）まで貼付が可能です。なお，パネルの種類により貼付方法（画鋏・セロテープ）が異なりますので，ポスター受付でご確認ください。

### 4. 発表要件

発表時間中ポスターを掲示し，1時間在籍し参加者と質疑応答をすることにより正式発表となります。

### 5. 筆頭発表者欠席の場合の扱い

筆頭発表者が欠席した場合には，連名発表者の代行を認めます。発表論文集に記載されている筆頭発表者が連名発表者に交代する場合，会期前は大会準備委員会に，会期中はポスター受付までご連絡ください。

### 6. その他

配布資料がある場合は，各自でご準備ください。

## 多職種連携・交流会

8月31日（土）12:30 より第2会場（地階1号室）にて，多職種連携・交流会を開催します。様々な領域で活動している参加者同士で交流・情報交換をしてみませんか。参加および出入り自由ですので，是非お立ち寄りください。

## 論文交換テーブル

日本行動分析学会では、会員の研究交流を推進するために既発表の論文を著者が展示し希望者に配布するスペース（論文交換テーブル）を年次大会で設けています。休憩室（2階 8・9・10号室）にご用意いたします。専門誌、紀要論文など発表媒体は問いません。紹介したい自著論文の抜刷（またはコピー）をご持参ください。

原則として、見本の抜刷を1編につき1部ご準備頂き、所定の場所で参加者が自由に閲覧できるようにします。抜刷の希望者が所定の名簿に名前と住所またはメールアドレスを記入し、著者が後日送付する方法で運営します。多くの部数をご持参頂ける場合はこの限りとせず、見本の1部以外は、希望者が自由にお持ち帰り頂けることとします。

会期終了後に残っているものについては、大会本部で処分いたします。また、紛失などの責任については負いかねますので、予めご了承ください。

## 日本行動分析学会の会員の方へのご案内

### 1. 会員集会

会員集会を8月31日（土）13:30から、第1会場（1階ホール）で行いますので、是非ご出席ください。

### 2. 理事会

理事会を、8月30日（金）16:30から、2階11号室で行います。理事の方はご参集ください。

### 3. 編集委員会

『行動分析学研究』の編集委員会を9月1日（日）12:30から、1階2号室で行います。編集委員の方はご参集ください。



# 大会プログラム



特別講演

8月31日（土）15:30～17:00 第1会場（1階ホール）

## Behavior Change for a Sustainable World : The Ultimate Challenge and Opportunity for Behavior Analysts

講演 William L. Heward, Ed.D., BCBA-D (The Ohio State University)

司会 島宗 理 (法政大学)

Satoru Shimamune (Hosei University)

## 大会企画シンポジウム

8月31日(土) 9:00~11:00 第2会場(地階1号室)

### 応用行動分析学によるリハビリテーションの発展

#### ～多職種連携の再考～

Development of rehabilitation by Applied Behavior Analysis

~ Reconsideration of Team approach~

- 企画 第37回年次大会準備委員会  
司会 釣 洋介(医療法人社団明日佳 札幌明日佳病院)  
Yousuke Tsuru (Sapporo Asuka Hospital)
- 話題提供 三橋 章人(医療法人社団明日佳 札幌明日佳病院)  
Akihito Mitsuhashi (Sapporo Asuka Hospital)  
中山 智晴(須崎くろしお病院)  
Tomoharu Nakayama (Susakikuroshio Hospital)  
矢作 満(在宅リハビリテーションセンター草加)  
Mitsuru Yasaku (Home Rehabilitation Center Soka)  
田辺 尚(医療法人社団明日佳 桜台明日佳病院)  
Nao Tanabe (Sakuradai Asuka Hospital)
- 指定討論 中山 直之(医療法人社団明日佳 白石明日佳病院)  
Naoyuki Nakayama (Shiroishi Asuka Hospital)

## 学会企画シンポジウム

9月1日(日) 9:00~11:00 第1会場(1階ホール)

### 障害児・者の“きょうだい”支援と研究

Behavioral Support and Research for Siblings of Persons with Disabilities

- 企画 奥田 健次(学校法人西軽井沢学園)  
Kenji OKUDA (Educational Foundation of Nishi Karuizawa Gakuen)  
園山 繁樹(島根県立大学)  
Shigeki SONOYAMA (The University of Shimane)
- 司会 園山 繁樹(島根県立大学)  
Shigeki SONOYAMA (The University of Shimane)
- 話題提供 奥田 健次(学校法人西軽井沢学園)  
Kenji OKUDA (Educational Foundation of Nishi Karuizawa Gakuen)  
戸田 竜也(北海道教育大学釧路校)  
Tatsuya TODA (Hokkaido University of Education)  
倉光 晃子(西南学院大学)  
Akiko KURAMITSU (Seinan Gakuin University)
- 指定討論 吉岡 昌子(愛知大学)  
Masako YOSHIOKA (Aichi University)

## 教育講座 1

8月30日（金）12:00～14:00 第1会場（1階ホール）

科学哲学からみた統計解析法  
シングルケースデザインを中心に

A Philosophical Approach to Statistical Methods: Single-Case Designs

講師 森元 良太（北海道医療大学）

Ryota Morimoto (Health Sciences University of Hokkaido)

司会 大口 拓也（特別養護老人ホームあすかHOUSE 白石）

Takuya Oguchi (Special Elderly Nursing Home AsukaHOUSE Shiroishi)

## 教育講座 2

8月30日（金）17:00～18:30 第4会場（1階2・3・4号室）

初めての応用行動分析学 ～これから始めるあなたへ～

Applied Behavior Analysis for Beginners

講師 近藤 鮎子（株式会社エルチェ）

Ayuko Kondo (Elche Inc.)

司会 小杉田 和樹（医療法人社団明日佳 桜台明日佳病院）

Kazuki Kosugita (Sakuradai Asuka Hospital)

## 公募企画シンポジウム 1

8月31日(土) 9:00~11:00 第1会場(1階ホール)

### マイルストーンとしての『行動分析学事典』

#### 言語共同体としての行動分析学

“The encyclopedia of Behavior Analysis (in Japanese)” as the milestone’s progress of Japanese Association for Behavior Analysis

企画・司会 武藤 崇 (同志社大学)

Takashi Muto (Doshisha University)

話題提供 藤 健一 (立命館大学)

Kenichi Fuji (Ritumeikan University)

坂上 貴之 (慶應義塾大学)

Takayuki Sakagami (Keio University)

大河内 浩人 (大阪教育大学)

Hiroto Okouchi (Osaka Kyoiku University)

中島 定彦 (関西学院大学)

Sadahiko Nakajima (Kwansei Gakuin University)

井澤 信三 (兵庫教育大学)

Shinzo Isawa (Hyogo University of Teacher Education)

## 公募企画シンポジウム 2

9月1日(日) 9:00~11:00 第2会場(地階1号室)

### 社会的行動の実験的分析 — 今後の研究の道筋と課題 —

The Experimental Analysis of Social Behavior: Conceptual, Technological, and Analytical Challenges

企画 黒田 敏数 (愛知文教大学)

Toshikazu Kuroda (Aichi Bunkyo University)

話題提供 大河内 浩人 (大阪教育大学)

Hiroto Okouchi (Osaka Kyoiku University)

黒田 敏数 (愛知文教大学)

Toshikazu Kuroda (Aichi Bunkyo University)

八賀 洋介 (早稲田大学)

Yosuke Hachiga (Waseda University)

佐伯 大輔 (大阪市立大学)

Daisuke Saeki (Osaka City University)

指定討論 Kennon A. Lattal (West Virginia University)

## 公募企画シンポジウム 3

9月1日（日）13:40～15:40 第1会場（1階ホール）

### これからの行動分析学について

Perspectives on the Future of Behavior Analysis

- 企画・司会 山岸 直基（流通経済大学）  
Naoki YAMAGISHI (Ryutsu Keizai University)
- 話題提供者 坂上 貴之（慶應義塾大学）  
Takayuki SAKAGAMI (Keio University)
- 園山 繁樹（島根県立大学）  
Shigeki SONOYAMA (The University of Shimane)
- 指定討論者 福田 実奈（同志社大学）  
Mina FUKUDA (Doshisha University)
- 畑 佑美（大阪市立大学）  
Yumi HATA (Osaka City University)

## 自主企画シンポジウム 1

8月30日（金）12:00～14:00 第2会場（地階1号室）

### 徹底的行動主義を見つめなおす

Reconsider the Radical Behaviorism

- 企画・司会 丹野 貴行（明星大学）  
Takayuki Tanno (Meisei University)
- 話題提供 丹野 貴行（明星大学）  
Takayuki Tanno (Meisei University)
- 武藤 崇（同志社大学）  
Takashi Muto (Doshisha University)
- 山本 淳一（慶應義塾大学）  
Junichi Yamamoto (Keio University)

## 自主企画シンポジウム 2

8月30日（金）12:00～14:00 第3会場（2階5・6・7号室）

### 「学校教育」におけるポジティブ行動支援（PBS）の最前線

The Front Line of Positive Behavior Support in School Education

- 企画・司会 大久保 賢一（畿央大学）  
Kenichi OHKUBO (Kio University)
- 話題提供 庭山 和貴（大阪教育大学）  
Kazuki NIWAYAMA (Osaka Kyoiku University)
- 田中 善大（大阪樟蔭女子大学）  
Yoshihiro TANAKA (Osaka Shoin Woman's University)
- 大対 香奈子（近畿大学）  
Kanakano OTSUI (Kindai University)
- 野田 航（大阪教育大学）  
Wataru NODA (Osaka Kyoiku University)
- 指定討論 平澤 紀子（岐阜大学）  
Noriko HIRASAWA (Gifu University)

### 自主企画シンポジウム 3

8月30日(金) 12:00~14:00 第4会場(1階2・3・4号室)

#### 言語関係の機能的拡張に向けたアセスメントと関係フレーム訓練

Assessment and Relational frame training for Functional Extension of Verbal Relation

- 企画 竹内 康二 (明星大学)  
Koji Takeuchi (Meisei University)
- 話題提供 勿田 文記 (株式会社スタートライン)  
Fumiki Haneda (Start Line Co.)  
近藤 健太 (明星大学)  
Kenta Kondo (Meisei University)
- 指定討論 松田 壮一郎 (筑波大学)  
Souichiro Matsuda (University of Tsukuba)

### 自主企画シンポジウム 4

8月30日(金) 14:15~16:15 第2会場(地階1号室)

#### 応用行動分析学の実践者の責任と倫理

Responsibility and Ethics of Practitioners of Applied Behavior Analysis

- 企画・司会 杉山 尚子 (星槎大学大学院)  
Naoko Sugiyama (Seisa University)
- 話題提供 松田 幸都枝 (チルドレン・センター)  
Kozue Matsuda (Children Center Inc.)  
ネッポ 香織 (カペラ大学)  
Kaori Nepo (Capella University)  
久留宮 由貴江 (行動コンサルタント)  
Yukie Kurumiya (Behavior Consultant)
- 指定討論 森山 哲美 (常磐大学)  
Tetsumi Moriyama (Tokiwa University)

## 自主企画シンポジウム 5

8月30日(金) 16:30~18:30 第2会場(地階1号室)

「話す・読む・理解する」の行動分析学：ことばと行動(第2版)

Behavior Analysis in "Speaking, Reading, and Comprehending": Language and Behavior (2<sup>nd</sup> Ed)

企画 大森 幹真(昭和女子大学)  
Mikimasa Omori (Showa Women's University)  
話題提供 矢作 満(在宅リハビリテーションセンター草加)  
Mitsuru Yasaku (Home Rehabilitation Center Soka)  
石塚 祐香(筑波大学)  
Yuka Ishizuka (University of Tsukuba)  
大森 幹真(昭和女子大学)  
Mikimasa Omori (Showa Women's University)

## 自主企画シンポジウム 6

8月30日(金) 16:30~18:30 第3会場(2階5・6・7号室)

トークンエコノミー研究の現状と課題 システムの有効性の検証

Current State and Research Issues of Token Economy: Verification of System Effectiveness

企画 恒松 伸(立命館大学)  
Shin TSUNEMATSU (Ritsumeikan University)  
司会 中村 敏(大阪市立大学)  
Satoshi NAKAMURA (Osaka City University)  
話題提供 杉原 聡子(作新学院大学)  
Satoko SUGIHARA (Sakushin Gakuin University)  
杉本 任士(北海道教育大学)  
Tadashi SUGIMOTO (Hokkaido University of Education)  
指定討論 石井 拓(和歌山県立医科大学)  
Taku ISHII (Wakayama Medical University)  
米山 直樹(関西学院大学)  
Naoki YONEYAMA (Kwansei Gakuin University)

### 第3回若手研究者口頭発表セッション

Oral presentation session by young behavior analysts

企画・運営 日本行動分析学会若手研究者優秀発表賞選考委員会・日本行動分析学会若手会

発表者① 金岡 あんな（筑波大学）  
Ana Kanaoka (University of Tsukuba)

発表者② 関根 悟（慶應義塾大学）  
Satoru Sekine (Keio University)

発表者③ 佐々木 銀河（筑波大学）  
Ginga Sasaki (University of Tsukuba)

発表者④ 折原 友尊（明星大学）  
Tomotaka Orihara (Meisei University)

## ポスター発表1 ポスター会場A (1階ホワイエ)

8月31日(土) ポスター掲示時間: 11:00~12:30

- |       |   |   |
|-------|---|---|
| P1-01 | “音痴”は矯正できるか?<br>カラオケ採点システムの効果検証                         | ○ 島宗 理  |
| P1-02 | 自立排泄に困難を示す知的障害児童に対する支援                                  | ○ 高津 梓<br>田中 翔大<br>仲野 みこ                                    |
| P1-03 | Go/No-Go型見本合わせにおける強化及び消去試行が大学生における対称律の成立に果たす役割の実験的検討    | ○ 石塚 雅貴<br>森山 哲美  |
| P1-04 | ゼブラフィッシュにおける3Dトラッキングを用いた反応復活と消去誘発性変動性の分析                | ○ 黒田 敏数<br>Carlos R. X. Cançado<br>Christopher A. Podlesnik |
| P1-05 | 緩和ケアにおけるスピリチュアルケアの行動獲得に向けた取り組み<br>—一般病棟看護師を対象としたSSTの効果— | ○ 狩谷 恭子<br>森山 哲美  |
| P1-06 | 幻聴を訴える統合失調症女性に対するエクスポージャー                               | ○ 仁藤 二郎<br>奥田 健次  |
| P1-07 | 自閉症児への起床後のタスクを時間内に行うための指導                               | ○ 竹中 薫<br>奥田 健次   |
| P1-08 | 道順の学習が困難であった症例に対する写真を用いた介入<br>左半側空間無視・同名半盲・認知症を合併した症例   | ○ 上村 朋美<br>加藤 宗則  |
| P1-09 | 頸髄損傷患者に対する滑車と重錘を用いた起き上がり練習                              | ○ 中山 智晴<br>山崎 裕司  |
| P1-10 | 嘔吐恐怖を訴える児の乗車行動への介入<br>—行動分析的介入が効果的であった一症例—              | ○ 岩橋 瞳<br>宮 裕昭<br>栗原 康通                                     |

## ポスター発表1 ポスター会場A (1階ホワイエ)

8月31日(土) ポスター掲示時間: 11:00~12:30

- |       |  |   |
|-------|--|---|
| P1-11 | 栄養管理プログラムの評価<br>—在宅高齢者における介入の試み—                               | ○ 鷺尾 潤子<br>飛田 伊都子<br>岸村 厚志<br>高野 佳<br>有田 弥棋子  |
| P1-12 | 幼児における食行動促進のための Visual Timer を用いた援助                            | ○ 奥田 健次<br>笹田 夕美子<br>奥田 聖子                    |
| P1-13 | 知的障害を伴わない自閉症幼児のトイレトレーニング<br>—保護者へのコンサルテーションとトークン・エコノミー法を用いた支援— | ○ 笹田 夕美子<br>奥田 聖子<br>奥田 健次                    |
| P1-14 | 激しい偏食のある発達障害児への食事指導<br>生態学的アセスメントと保護者へのコンサルテーションを軸とした幼稚園での取り組み | ○ 奥田 聖子<br>笹田 夕美子<br>奥田 健次                    |
| P1-15 | 反応形態の違いが SAFMEDS の学習効果に及ぼす影響<br>—SAFMEDS に say は必要か?—          | ○ 石井 要伸<br>杉山 尚子                              |
| P1-16 | 社会的影響とルール支配行動<br>—非対面でのルール共有がルール性制御に及ぼす影響—                     | ○ 中村 敏<br>佐伯 大輔                               |
| P1-17 | ダウン症児に対する大小弁別の学習促進に有効な指導方法の比較検討                                | ○ 岩城 夢由菜<br>米山 直樹                             |
| P1-18 | 結果のフィードバックと称賛を用いた下衣操作練習<br>—重度片麻痺と注意障害を認める一症例による検討—            | ○ 一本柳 千春<br>川口 沙織<br>加藤 宗規                    |
| P1-19 | 発達障害児を対象とした療育指導者育成プログラムの検討                                     | ○ 藤村 桃子<br>北村 紗耶香<br>足立 みな美<br>井上 菜穂<br>井上 雅彦 |
| P1-20 | 報酬の損失を考慮したセルフ・コントロールパラダイムの検討<br>遅延の長さの効果                       | ○ 片山 綾<br>佐伯 大輔                               |

## ポスター発表 2 ポスター会場 B (2 階展示ホール)

8 月 31 日 (土) ポスター掲示時間 : 11:00~12:30

- |       |   |                                     |
|-------|---|-------------------------------------|
| P2-01 | 動物介在活動を目指す飼い主への行動リハーサル訓練<br>行動間多層ベースラインでのハンドリングスキル向上効果      | ○ 山ノ上 ゆき子<br>眞邊 一近<br>千田 純子         |
| P2-02 | 機能的アセスメントに基づく支援方法の選択<br>課題不従事と不適切な言語行動を示す自閉スペクトラム症のある児童への対応 | ○ 林 詩穂里<br>真名瀬 陽平<br>野呂 文行          |
| P2-03 | 目標設定に対する話し合いが集団随伴性下のパフォーマンスに与える影響                           | ○ 柿本 りえ<br>高浜 浩二                    |
| P2-04 | SST による新人エステティシヤンの接客技術向上<br>—SNS による個別指導効果—                 | ○ 吉田 真希<br>松本 啓子<br>村井 佳比子<br>眞邊 一近 |
| P2-05 | 知的能力障害児における模擬場面を用いた授業準備行動の形成<br>—リングファイルの指導方法を踏まえて—         | ○ 北田 智子<br>中山 歩<br>米山 直樹            |
| P2-06 | 自閉スペクトラム症生徒に対する機能的アセスメントに基づく<br>ソーシャルスキルトレーニングの効果           | ○ 町田 みつ江<br>若林 風佳<br>高浜 浩二          |
| P2-07 | 知的障害特別支援学校に通う生徒の紙破り行動への支援                                   | ○ 漆畑 千帆<br>前川 圭一郎<br>高津 梓           |
| P2-08 | ヒトの回避行動に及ぼす損失量とタイムアウト時間の効果                                  | ○ 腰冢 由子<br>久保 尚也<br>小野 浩一           |
| P2-09 | TSD 法を利用した自閉症児の歯科診療への取り組み (2)<br>—歯科予防処置が出来るまで—             | ○ 松岡 円<br>杉山 尚子                     |
| P2-10 | 高等学校における学校全体で取り組むポジティブ行動支援第 1<br>層支援の導入と展開<br>—懲戒指導に及ぼす効果—  | ○ 松山 康成<br>三田地 真実                   |

## ポスター発表 2 ポスター会場 B (2 階展示ホール)

8 月 31 日 (土) ポスター掲示時間 : 11:00~12:30

- |       |   |   |
|-------|---|---|
| P2-11 | 社交不安と遅延価値割引の関係<br>—金銭強化子とスピーチ強化子との比較—                               | ○ 池田 正樹<br>佐伯 大輔                                      |
| P2-12 | 神経発達症児に対する音素に基づく構成反応見本あわせ法が英<br>単語学習に与える効果                          | ○ 若林 風佳<br>高浜 浩二                                      |
| P2-13 | 発達障害のある幼児を対象とした小集団療育場面における実施<br>負担の少ないスタッフトレーニングの開発                 | ○ 伊藤 夢未<br>竹内 康二<br>鈴木 友理                             |
| P2-14 | ゼブラフィッシュの行動的聴力曲線  | ○ 眞邊 一近   |
| P2-15 | Contingency Adduction 手続きを用いた視覚的な点字学習<br>—未訓練の点字要素を含む複合刺激による制御の可能性— | ○ 小原 健一郎<br>大島 研介                                     |
| P2-16 | 父親に対するこだわり行動が頻発する ASD 児を対象とした個別<br>ペアレント・トレーニング                     | ○ 金 喬<br>椎木 泰華<br>米山 直樹                               |
| P2-17 | 集団教育での行動分析:個と集団の試行錯誤  | ○ 竹島 浩司   |
| P2-18 | 難聴認知症患者の車椅子ブレーキ操作獲得に向けた介入   | ○ 渡辺 ななみ<br>小杉田 和樹<br>村山 一志<br>桜田 茉依<br>遠藤 晃祥<br>田辺 尚 |
| P2-19 | 認知症者の拒否行動に対して段階的な介入を行った症例   | ○ 岩佐 亮<br>小杉田 和樹<br>池田 優香<br>遠藤 晃祥<br>田辺 尚            |
| P2-20 | 不適切なタイミングで排泄行為を訴える認知症患者に対する介<br>入<br>～トイレ誘導後に視覚的フィードバックを行った症例～      | ○ 池田 優香<br>小杉田 和樹<br>岩佐 亮<br>遠藤 晃祥<br>田辺 尚            |

### ポスター発表 3 ポスター会場 A (1 階ホワイエ)

9 月 1 日 (日) ポスター掲示時間 : 11:00~12:30

- |       |  |  |
|-------|--|--|
| P3-01 | 報酬の遅延価値割引とストレス経験<br>—業務運転者の運転中のヒヤリ・ハット体験との関連—                      | ○ 松本 明生<br>平岡 恭一   |
| P3-02 | 自閉スペクトラム症児に対するひらがなカードを用いた左右弁別の指導                                   | ○ 長野 日菜子<br>清水 麻衣<br>米山 直樹   |
| P3-03 | 教員に対する賞賛行動促進のための手続きの検討<br>—特別支援学校小学部の 1 事例を考察する—                   | ○ 土田 菜穂<br>中鹿 直樹   |
| P3-04 | ガイド付きメモによる自閉スペクトラム症児の教示に注意を向ける行動の促進                                | ○ 宇留野 哲<br>永富 大輔<br>松尾 祐希<br>野呂 文行                                     |
| P3-05 | 古典的条件づけに注目した節煙プログラムの開発<br>—Bouton (2004)を参考とした検討—                  | ○ 福田 実奈  |
| P3-06 | ASD 児におけるアナログゲームを活用した他者との余暇活動レパートリーの拡大                             | ○ 関 優美<br>竹内 康二  |
| P3-07 | 自閉症スペクトラム児における疑似的自己モニタリングによる不適切行動の低減<br>—他者の主観的視点の映像によるビデオフィードバック— | ○ 和田 暢子<br>竹内 康二   |
| P3-08 | 発達障害および知的障害のある子どもに対するアプリケーションを用いた PEAK 課題実施の効果検証                   | ○ 近藤 健太  |
| P3-09 | 大学生の確率割引課題における選択行動に関与する諸要因の検討<br>—衝動性・ADHD 傾向・見通し力・ギャンブル嗜好性—       | ○ 水流 百香<br>吉田 萌<br>久保 浩明<br>永井 友幸<br>森寺 亜伊子<br>中本 百合江<br>吉井 光信<br>麦島 剛 |
| P3-10 | ASD 児における高次条件性弁別に基づいた曖昧な社会的状況に対する対処行動の形成                           | ○ 外川 輝<br>高浜 浩二  |

### ポスター発表3 ポスター会場A (1階ホワイエ)

9月1日(日) ポスター掲示時間: 11:00~12:30

- P3-11 学校規模のポジティブ行動支援が小学生の学校適応に与える効果の検討 ○ 國廣 彩子  
田中 善大  
庭山 和貴  
大対 香奈子
- P3-12 強化遅延は自閉スペクトラム症児の始発型共同注意を促進するか? ○ 小山 雅代  
山本 淳一
- P3-13 レジリエンスエンジニアリングでの行動分析活用法の検討—機能共鳴分析法 FRAM を用いた随伴性分析の検討— ○ 日下部 茂
- P3-14 重度知的障害が伴う自閉スペクトラム症児における物の名称理解の促進の検討—絵カードプロンプトと身体ガイダンスの比較— ○ 龔 麗媛  
馬場 千歳  
野呂 文行
- P3-15 ADHD モデルマウスの遅延価値割引課題における衝動的選択行動の研究—Sooner-Smaller 選択の遅延時間を変数とする心理的等価点の検討— ○ 吉田 萌  
水流 百香  
久保 浩明  
永井 友幸  
森寺 亜伊子  
中本 百合江  
吉井 光信  
麦島 剛
- P3-16 ゲーム事態での確率による価値割引 VI 獲得および損失の割引率とリスク志向尺度およびセルフコントロール尺度との関連 ○ 吉野 俊彦  
山下 博志  
吉野 智富美
- P3-17 自閉スペクトラム症児に対する交互交代行動の指導 ○ 馬場 千歳  
龔 麗媛  
野呂 文行
- P3-18 自閉スペクトラム症児のうなずき行動に対する視覚的ルール提示を用いた SST の効果 ○ 近澤 あかり  
高浜 浩二
- P3-19 重度知的発達症者へのビデオセルフモニタリングの効果に影響する学習セットの検討 ○ 太田 研
- P3-20 文章の視写訓練に付随した視線機能の変容 ○ 大森 幹真

## ポスター発表 4 ポスター会場 B (2 階展示ホール)

9 月 1 日 (日) ポスター掲示時間 : 11:00~12:30

- |       |  |   |   |
|-------|--|---|---|
| P4-01 | Relations between Parental Stress Levels and the Characteristics of Children with Autism Spectrum Disorder | ○ | Yaqiang Wei<br>Atsuko Matsuzaki<br>Takahide Omori<br>Junichi Yamamoto |
| P4-02 | ASD 児に対する分化結果手続きを用いた表情弁別の指導  | ○ | 高本 勝明<br>高浜 浩二  |
| P4-03 | 「ケアレスミス」がある ASD 児への見直し行動形成についての検討  | ○ | 半田 瞳<br>高浜 浩二   |
| P4-04 | 自閉スペクトラム症児に対する位置関係に基づく指示語の理解   | ○ | 手塚 彩花<br>高浜 浩二  |
| P4-05 | 定型発達児における小集団活動のモーションキャプチャを用いた定量評価  | ○ | 塚本 匡<br>辻 愛里<br>関根 悟<br>鈴木 健嗣<br>山本 淳一                                |
| P4-06 | ヒトの迷信行動に関する連続指標を用いた分析  | ○ | 寺沢 勇紀<br>澤 幸祐   |
| P4-07 | 自閉スペクトラム症児における既学習課題挿入手続き—既学習課題で求められる反応型が標的課題の獲得に与える効果について—   | ○ | 藤本 夏美<br>野呂 文行  |
| P4-08 | 中度知的障害を伴う ASD 児への疑似的自己モニタリングを用いた行動支援   | ○ | 吉田 望<br>竹内 康二   |
| P4-09 | ハトにおける 2 種類の分化結果が与える弁別学習への効果   | ○ | 坂上 貴之<br>中川 智道  |
| P4-10 | 多元スケジュールを用いたヒトにおける反応復活の検討—正の強化と負の強化および強化率の比較—  | ○ | 井垣 竹晴<br>山岸 直基  |

## ポスター発表 4 ポスター会場 B (2 階展示ホール)

9 月 1 日 (日) ポスター掲示時間 : 11:00~12:30

- |       |   |   |                                   |
|-------|---|---|-----------------------------------|
| P4-11 | 価値に沿った行動の拡大を中心としたうつ病患者への行動活性化療法                                   | ○ | 岩田 彩香<br>和田 剛宗                    |
| P4-12 | 精神科外来における生活記録表を用いたセルフモニタリングの効果 (1)<br>—不安・抑うつ症状を呈する軽度知的障がい者の事例検討— | ○ | 川上 英輔<br>嶋山 東志子<br>竹澤 律子<br>北村 直也 |
| P4-13 | 認知症高齢者の介護拒否行動への介護員による評価と記録の効果                                     | ○ | 渡辺 修宏                             |
| P4-14 | 精神科外来における生活記録表を用いたセルフモニタリングの効果 (2)<br>—10 年ひきこもっていた抑うつ患者に対する事例検討— | ○ | 井上 湧斗<br>川上 英輔<br>深井 光浩           |
| P4-15 | 発達障害通級指導教室児童の学習行動形成に対するセルフマネジメントの効果                               | ○ | 佃 吉晃<br>杉山 尚子                     |
| P4-16 | 包括的なセラピストスキルチェックリスト(TSCL)の開発と検討                                   | ○ | 菅佐原 洋<br>近藤 鮎子<br>山本 淳一           |
| P4-17 | 自閉症スペクトラム障害を持つ幼児への偏食改善指導<br>プレマックの原理を用いた奥田式ミニタッパー並べ食事指導の応用        | ○ | 吉野 智富美<br>吉野 俊彦                   |
| P4-18 | 発達障がい児における関係者間比較アセスメントの検討   | ○ | 伊藤 真子<br>竹内 康二                    |
| P4-19 | BPSD がみられる認知症患者への関わり  | ○ | 田辺 尚<br>遠藤 晃祥                     |
| P4-20 | 認知症患者に対する活動量増加と刺激の特定  | ○ | 小杉田 和樹<br>遠藤 晃祥<br>田辺 尚           |



# 公開講座

以下の公開講座は年次大会の企画ではございません。  
そのため、ご参加の際は別途お申込が必要となります。  
お問い合わせは年次大会準備委員会ではなく、お申込先へお願いいたします。

## 公開講座

9月1日(日) 13:00～16:30 第2会場(地階1号室)

### 応用行動分析学アプリケーション

一子育て・発達支援からメンタルヘルス・リハビリまでー

定員：100名(申込先着順)

参加費：3,000円(年次大会参加者は2,000円)

お申込：reoncounseling@gmail.com まで

①氏名②ご所属③連絡先アドレス④電話番号を記入の上でお申し込みください。

講座1：13:00～14:30

講師：奥田 健次(学校法人西軽井沢学園)

Kenji OKUDA (Educational Foundation of Nishi Karuizawa Gakuen)

演題：早期療育におけるターゲットとは？学習を促進する行動と妨げる行動

講座2：15:00～16:30

講師：山本 淳一(慶應義塾大学)

Junichi Yamamoto (Keio University)

演題：応用行動分析学を使いこなす

# 一般社団法人日本行動分析学会第 37 回年次大会 協賛協力ご芳名（五十音順，敬称略）

## ■協賛

医療法人社団明日佳  
学校法人 日本医療大学

## ■広告掲載

医療法人社団明日佳  
株式会社 エルチェ  
株式会社 北大路書房  
株式会社 二瓶社  
学校法人 日本医療大学

## ■展示販売

株式会社 明石書店  
株式会社 丸善出版  
有限会社 スペース 96

# 一般社団法人日本行動分析学会第 37 回年次大会 準備委員会

委員長 遠藤 晃祥（日本医療大学）  
委員 中山 直之（白石明日佳病院）  
釣 洋介（札幌明日佳病院）  
大口 拓也（特別養護老人ホームあすか HOUSE 白石）  
田辺 尚（桜台明日佳病院）  
小杉田 和樹（桜台明日佳病院）

大会事務委託 有限会社 リファレンス

## 一般社団法人日本行動分析学会第 37 回年次大会 プログラム・論文集

発行者 日本行動分析学会第 37 回年次大会  
委員長 遠藤 晃祥  
〒061-1373 北海道恵庭市恵み野西 6 丁目 17-3  
日本医療大学（恵み野キャンパス） キャリア学修支援センター内  
メールアドレス：jaba-meeting@j-aba.jp  
ホームページ：http://www.j-aba.jp/meeting/2019/

1▶

# 教育者の成長

フレッド・ケラー自叙伝

近日刊行!

## Pedagogue's Progress

眞邊一近 ◎ 監訳

村井佳比子 / 岩田二美代 / 杉本任士 ◎ 訳

Fred Simmons Keller ◎ 著

行動分析家必読! 本書はB.F. Skinnerと並び称される、個別化学習システムの開発者であり、行動分析学に基づく教育の普及に貢献したFred S. Kellerの自叙伝である。

障害児の問題行動  
動物実験心理学セッション  
一事例の実験デザイン  
うまくやるための強化の原理  
行動分析学から見た子どもの発達  
お母さんの学習室  
重度知的障害への挑戦  
強迫性障害の治療ガイド  
学習性無力感  
臨床心理学の源流 第3刷  
行動分析学からの発達アプローチ  
挑戦的行動の先行子操作  
空間認知研究ハンドブック  
他領域で学ぶ人のための行動科学入門  
入門・問題行動の機能的アセスメントと介入  
入門・精神遅滞と発達障害  
自閉症児の発達と教育  
入門・発達障害と人権

科学と人間行動  
コミュニケーションプロセス  
犬のクリックカー・トレーニング  
親と教師のためのAD/HDの手引き  
AD/HDをもつ子どものお母さんの学習室  
子どもの発達の行動分析 新訂訳  
はじめての応用行動分析 日本語版第2版  
スキナーの心理学  
Puppy Love (DVD版)  
クリックカーで愛犬のトレーニング  
自閉症、発達障害児のためのトイレットトレーニング  
自閉症者のギター  
行動変容法入門  
自閉症児の親を療育者にする教育  
自閉症児と絵カードでコミュニケーション  
猫のクリックカー・トレーニング  
刻印づけと嗜癖症のアヒルの子  
行動科学ブックレット1~11

インクルーシブセラピー  
人間コミュニケーションの語用論 第2版  
メイザーの学習と行動 日本語版第3版  
わかりやすい認知療法  
タッチ  
機軸行動発達支援法  
発達障害のある人と楽しく学習  
子どものニーズに応じた保育  
広汎性発達障害児への応用行動分析  
スクールワイドPBS  
自閉症児のための活動スケジュール  
行動分析家の倫理  
発達障害児の言語獲得  
心理学実験ノート 第6版  
発達障がい児のための新しいABA療育 PRT  
行動主義を理解する -行動・文化・進化-  
場面緘黙の子どもの治療マニュアル

★二瓶社好評既刊——行動分析関連図書(刊行順)

2▶

# 自閉症児と

第2版

待望の改訂版!

## 絵カードで コミュニケーション

近日刊行!

## A Picture's Worth

PECS and Other Visual  
Communication Strategies in Autism  
Second edition

Andy Bondy / Lori Frost ◎ 著

# 二瓶社

TEL 03-4531-9766 FAX 03-6745-8066

●二瓶社の書籍は全国の書店でお求めいただけます。

# 北大路書房

〒603-8303

京都市北区紫野十二坊町12-8

☎075-431-0361 FAX 075-431-9393

http://www.kitaohji.com

## ギフトイド【仮題】

—2019年秋刊行予定!— J. T. ウェッパ他著 角谷詩織・榎原洋一監訳 A5・約448頁・予価5200円+税 高知能であるなど1つ以上の分野で並外れた才能を示すギフトイドは、発達障害や様々な精神疾患と「誤診」されることが少なくない。事例を豊富に取り上げ、類似する障害の特性と比較しながら、今後の健全な支援に向けた手引きとなる一冊。

## 心理学ベーシック 第5巻 なるほど! 心理学面接法

三浦麻子監修 米山直樹・佐藤 寛編著 A5・272頁・本体2400円+税 心を深く探ることができる研究法であるが、対象者と直接関わるための臨床的な技術が求められる難しさがある。本書では、アセスメントで求められる技術と方法、面接データの解析、臨床面接法について体系的に概説し、研究および臨床の両軸を念頭に広く深い視野の提供を目指す。

## 臨床心理 公認心理師のための「発達障害」講義

フロントティア 下山晴彦監修 桑原 斉・田中康雄・稲田尚子・黒田美保編著 B5・224頁・本体3000円+税 現代臨床心理学を牽引するエキスパートによる講義を紙面で再現。講義動画と連携して重要テーマを学べるシリーズ。Part1では障害分類とその診断の手続き、Part2では心理職の役割、Part3では自閉スペクトラム症の理解、Part4ではその支援について扱う。

## 公認心理師 標準テキスト 心理学的支援法

杉原保史・福島哲夫・東 斉彰編著 A5・308頁・本体2700円+税 特定の学派に閉じこもらずバランスよく学ぶことを推奨し、各学派的理論と技法の最前線と普遍的な治療原理を理解できるよう配慮。並列的な解説に留めず、有機的・立体的な学びを目指す。公認心理師大学カリキュラム「心理学的支援法」に対応した教科書。

### 【三訂】臨床心理アセスメントハンドブック

村上宣寛・村上千恵子著 2700円+税

### マインドフルネスストレス低減法

J. カバットジン著/春木 豊訳 2200円+税

### 精神病と統合失調症の新しい理解

A. クック編/国重浩一・バーナード訳 3200円+税

### 樹木画テスト

高橋雅春・高橋依子著 1700円+税

### 実践家のための認知行動療法テクニックガイド

坂野雄二監修/鈴木伸一・神村栄一著 2500円+税

### メンタライジング・アプローチ入門

上地雄一郎著 3600円+税

### P-Fスタディ アセスメント要領

秦 一士著 2600円+税

### ポジティブ心理学を味わう

J. J. フロウ他編/島井哲志・樫田早苗・亀島信也監訳 2700円+税

### ふだん使いのナラティブ・セラピー

D. デンボロウ著/小森康永・奥野 光訳 3200円+税



- みんなの えがおのお手伝い -

「障がいのあるなしに関わらず、誰もが一緒に快適に暮らせる社会を築くためのお手伝いがしたい」そんな思いからエルチェはスタートしました。

私たちは「療育とは、より丁寧で、手間をかけた、工夫する子育て」と考えています。職員一同、一人一人のお子さんに寄り添いながら、応用行動分析（ABA）に基づいた丁寧な療育を心がけています。

## エルチェのお約束

1. 実行力のあるサービスを提供し、ご本人とご家族の生活の質を高めます。
2. 応用行動分析に基づいた専門性の高いサービスをお子様の状態に合わせて提供します。
3. サービスの質を、常に模索し追求し続けます。

### レンテ (児童発達支援)

公的制度を用いた  
ABAの理論に基づく療育

### コンブリオ (児童発達支援・放課後等デイ サービス)

障がいのあるお子様の  
放課後/長期休み お預かり

### スキエット (行動援護・移動支援・居宅介護)

障がい児・者の余暇  
外出支援、生活支援

今までも、そしてこれからも。全力で取り組んでいきます。

採用情報も  
こちらから！



株式会社 エルチェ <https://elche.co.jp/>

〒272-0115 千葉県市川市富浜 2-12-18 KIYビル2階



医療と福祉の現場から誕生した  
**日本医療大学**

四季折々の美しい自然に抱かれる真栄キャンパス

保健医療学部

看護学科(入学定員100名)

診療放射線学科(入学定員50名)



日本医療大学 真栄キャンパス

〒004-0839 札幌市清田区真栄434-1

アンデルセン福祉村

TEL: 011-885-7711

<https://www.nihoniryo-c.ac.jp/>



## つしま医療福祉グループ

社会福祉法人ノテ福祉会

社会福祉法人日本介護事業団

一般財団法人つしま医療福祉研究財団

医療法人社団光進会札幌月寒病院

NPO法人シニアアクティブ

農業生産法人株式会社つしまファーム



医療と福祉の現場から誕生した  
**日本医療大学**

札幌近郊で自然豊かな恵まれた環境の恵み野キャンパス

保健医療学部

リハビリテーション学科

理学療法学専攻(入学定員80名)

作業療法学専攻(入学定員40名)



日本医療大学 恵み野キャンパス

〒061-1373 恵庭市恵み野西6丁目17-3

TEL:0123-29-3171

<https://www.nihoniryoyo-c.ac.jp/>



株式会社つしまマネージメント  
一般社団法人  
日本・アジア介護事業者協議会

学校法人日本医療大学

日本医療大学

日本医療大学認知症研究所

専門学校日本福祉学院日本語学科

学校法人日本医療大学生涯学習センター

患者さんはいつも  
不安と隣り合わせ。  
それよりもっと近くで  
寄り添いたい。

Ask me

明日佳に、相談を。

高齢者医療、介護、健康診断、障がい者福祉は、  
明日佳グループ相談窓口へ。

 **0120 655 625**

受付時間 **9:00~17:00 (平日)** ※携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

明日佳グループ



[www.asuka-gp.or.jp/](http://www.asuka-gp.or.jp/)

明日佳グループ【北海道】

札幌明日佳病院／白石明日佳病院／桜台明日佳病院／岩見沢明日佳病院／札幌健診センター／札幌宮の沢脳神経外科病院／札幌エルム病院  
介護老人保健施設あすかHOUSE東苗穂／特別養護老人ホームあすかHOUSE手稲／特別養護老人ホームあすかHOUSE白石／ワークトピアあすか(障がい者支援事業所)

明日佳グループ【関東】

埼玉あすか松伏病院／介護老人保健施設あすかHOUSE松伏／東京明日佳病院／明日佳クリニック荻窪／明日佳クリニック鶴川／あすかライフケア(通所介護)

 **明日佳グループ**

